【POWTECH TECHNOPHARM 2026 会場レポート】
進化するプロセス技術の最前線



出展品	展示ホール	出展者数	来場者数
粉砕・解砕機、分級・選別・分離装置、混合・造粒・コーティング装置、熱処理・乾燥装置、搬送・輸送機器、計量・投与・充填装置、粒子分析・測定機器、自動化システム、密閉システム、滅菌設備、防爆・安全・環境・リサイクルテクノロジー	3 ホール：7, 7A, 9	397 社	約 6,000 人

2026 年 9 月 29 日（火）～10 月 1 日（木）の 3 日間にわたり、ドイツ・ニュルンベルクの見本市会場において、粉体・流体・バルク固体およびプロセス技術の国際専門見本市「POWTECH TECHNOPHARM 2026」が開催されました。同見本市は、最先端のプロセスエンジニアリング技術が業界の垣根を越えて横断的に活用される場です。このため、会場には、製薬、化学、食品、化粧品から、建材、製紙、そして近年急速に需要が高まる電池産業に至るまで、多種多様な産業分野の意思決定者が世界中から集結しました。

医薬品・ライフサイエンス分野の強化に伴う見本市の名称改称から 2 回目となった今回。出展者の約 3 分の 2 が規制の厳しい医薬品業界向け、約 4 分の 3 が化学・食品・飼料産業向けのソリューションを展示しました。さらに半数以上が化粧品、建材、プラスチックなどの分野にも対応した製品を披露しており、ライフサイエンス領域への拡充を目指した見本市の戦略が、着実に実を結んでいることを証明しています。

包装技術の見本市「FACHPACK」や粉体工学の国際会議「PARTEC」との併催によって大規模な集客を記録した前回 2025 年とは異なり、今回は単独での開催となりました。周辺業界からの流入が減少し、会場内は前回に比べて落ち着いた雰囲気に包まれたものの、会期 2 日目には目的意識の極めて高い専門家が多数来場。将来の取引へ直結する具体的かつ密度の濃いビジネス商談が活発に行われました。



ホール 7-659: ENTEX Rust & Mitschke GmbH

160 超の特許技術で世界を牽引。原料の混練・反応・成形を一元化する連続プロセスの世界的リーダー。



ホール 7-866: LÖDIGE Maschinenbau

産業用ミキサーのイノベーター。高付着性粉体から微量添加剤まで、難易度の高い混合プロセスを独自のショベルテクノロジーでクリア。



ホール 7A-505: Maschinenfabrik Gustav Eirich GmbH & Co KG

混合から乾燥までを 1 ポットで完結。最高峰の衛生基準を叶える、150L の中規模生産モデル「CleanLine C150」。2026 年のドイツイノベーションアワードを受賞した最新鋭機が、今回の見本市で世界初披露されました。



ホール 7A-530: Hosokawa Micron BV

世界 25 拠点以上のネットワークから得た専門知識を結集し、生産ラインに最適なプロセスデザインを提案。設計から施工までを一貫してカバーする「ターンキー・ソリューション」の圧倒的なエンジニアリング力を披露し、多くの来場者の注目を集めました。



ホール 9-233: Endress+Hauser

計測機器、自動化ソリューションのグローバルリーダー。プロセスの見える化と効率向上を実現する最新の計測技術やデジタルソリューションを紹介。



ホール 9-348: VEGA Grieshaber KG

レーダー式レベル計測技術のグローバルリーダー。過酷な粉塵環境や高温・高圧下での測定確度を誇る 80GHz レーダーセンサーや、補完的な放射線式計測ソリューションを紹介。



ホール 7-806: AZO GmbH & Co. KG
食品・製薬向けの高精度な自動調合およびミキサー供給システムにおいて、圧倒的な実績と技術力を持つグローバルリーダー。コンタミネーションを徹底的に防ぐ衛生的なプロセス設計や、多品種少量の生産に対応可能なスマートな調合システムを紹介。



ホール 7-807: Sympatec GmbH System
粉体や流体の粒子径・粒度分布を測定する分析機器のパイオニア。レーザー回折式測定システムは、その圧倒的な測定確度と再現性により、世界中の研究開発や品質管理の現場で絶対的な信頼を獲得。

今回の見本市では、伝統的な粉体処理技術の進化にとどまらず、特に以下の 4 つのテーマに大きな関心と注目が集まりました。

- **サステナビリティとエネルギー効率の追求**

  プロセス産業全体において、今回最も関心が高かったテーマです。大量の電力を消費する粉砕や乾燥などの工程に向けて、多くの省エネ型マシンが提案されました。また、リサイクル素材（二次原料）の処理時に課題となる摩耗や異物混入への対策、さらに需要が急増しているリチウムイオン電池の電極材料など、電池産業向けの上流・下流プロセス技術の展示が活況を呈しました。

- **スマートインダストリーと AI・デジタル化の推進**

  製造プロセスの最適化と省人化を実現するデジタル技術の提案が目立ちました。AI を活用した粉体挙動のシミュレーション技術や、センサーデータを基にした機械の「予兆保全」システムが多くの関心を集めました。さらに、生産ラインの効率化に貢献する柔軟なモジュール型プラントや、遠隔監視・自動制御ソリューションなど、次世代のスマートファクトリーを見据えた具体的な展示が来場者の視線を引きつけました。

- **高度な医薬品・食品プロセス**

  見本市の名称改称に伴い、最も強化された専門領域です。GxP 準拠の医薬品製造においては、厳格なクリーン環境とプロセスの安定性を両立する隔離技術や封じ込めソリューションが展示されました。食品分野では、栄養素や風味を損なわずに混合・乾燥・造粒を行う「穏やかな加工技術」など、消費者ニーズに即した食品エンジニアリングが披露されました。

- **プラントの安全と環境保全対策**

  粉体処理の現場において、決して切り離すことのできない実用的な最重要テーマです。Messepark で毎日実施された「可燃性粉塵の爆発防護」のライブ実演は多くの来場者を集め、安全対策コンポーネントへの関心の高さを証明しました。また、ドイツ機械工業連盟（VDMA）の特設エリアに代表される、産業用の集塵・大気汚染制御技術や高度なフィルタリング技術も大きな注目を集め、持続可能でクリーンな生産プロセスの重要性を示しました。

また、今回も会場内では、特定の課題や業界にフォーカスした特設エリアやテーマ型パビリオンが設けられ、来場者の高い関心を集めました。

- **Recycling-in-Focus（新設）：リサイクルの未来を塗り替える機械工学イノベーション**

  今回新たに開設され、大きな注目を集めたパビリオンです。破砕・分離・洗浄から再生材の高度利用にいたるまで、一連のプロセス技術を網羅。従来のガラスやプラスチック、金属といった資源に加え、近年急成長を遂げているバッテリーや電子機器、さらには繊維の再資源化に向けた最先端のリサイクル技術が紹介されました。

- **Pharma-in-Focus ：厳格な規制に対応する「医薬品製造プロセス」**

  液剤、半固形、固形製剤など、あらゆる剤形に対応する製薬プロセス技術を集約したエリアです。厳しい規制環境（GxP）に適合した設備や品質管理システムの実演が行われ、高度な安全性と生産性の両立に向けた具体的な道筋が提示されました。特に、GMP（適正製造規範）に準拠した設備、革新的な打錠・洗浄プロセス、そして一貫した文書管理システムなどが焦点となりました。

- **ドイツ・バルク固体産業協会（DSIV）パビリオン：DSIV Process Solutions**

  会員企業による粉粒体ハンドリングおよび固体プロセス技術が紹介されました。破砕、混合、搬送、安全対策にいたるまで、欧州の最前線トレンドを効率的に把握できる中心的な情報発信拠点として機能しました。

- **Young Innovators：ドイツの革新技術が集結する共同スタンド**

  ドイツ連邦経済・気候保護省の支援を受け、設立 10 年未満の革新的なドイツのスタートアップ企業や中小企業が多数出展しました。粉粒体輸送の効率化・自動化システムをはじめ、生産・エネルギー効率の最適化、インライン・プロセス分析ソリューションといった次世代の先進技術が披露されました。



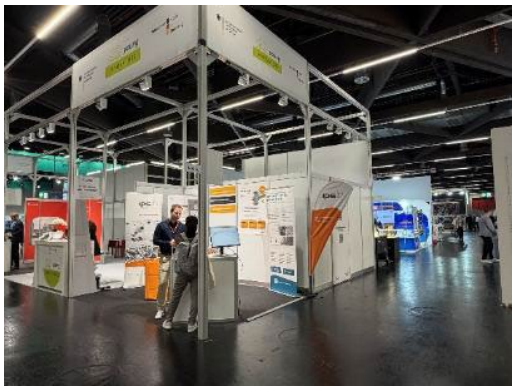
Recycling-in-Focus：ホール 9-228



Pharma-in-Focus：ホール 9-554



DSIV パビリオン：ホール 7 -857, 960


Young Innovators：ホール 9-610 a-g,

- **ドイツ機械工業連盟（VDMA）特別展示エリアに見る次世代プロセス技術：Clean Air – Smart Processing**

  「環境配慮とスマート化の融合」をテーマに、次世代のプロセス技術が紹介されました。同連盟の加盟企業との連携による 12 の主要展示を中心に、革新的なダストマネジメント（集塵・防爆）や、AI・デジタル化を駆使したインテリジェントなプロセス制御のデモを実施。持続可能性と生産効率の双方を追求する具体的なソリューションが提示されました。

- **EXPERT FORUM**

  会期中の 3 日間にわたり、専門家による計 88 の技術プレゼンテーションが行われ、医薬品製造プロセス、スマートインダストリー、エネルギー効率、リサイクル、そして「プロセス技術の未来」といった多岐にわたるトピックについて深い知見が共有されました。中でも特に注目を集めたのが、医薬品製造の安全性に関する講演です。欧州防爆指令（ATEX）への準拠と、最高レベル（OEB 5）の封じ込め（高薬理活性対策）を両立する安全な粉塵吸引技術など、厳格な規制をクリアするための具体的な運用ノウハウが提示され、会場は満席となる大盛況ぶりを見せました。



VDMA 特別展示エリア：ホール 7-776



EXPERT FORUM：ホール 7-489

欧州をはじめ世界中から最新のプロセス技術が集まる中、独自の強みや優れた技術力の紹介に努めた日本企業の動向も、今回の見本市における注目すべきポイントの一つでした。

- **日本粉体工業技術協会（APPIE）共同ブースによる技術発信**

  今回、日本粉体工業技術協会（APPIE）はホール 7 に共同ブースを設置し、国内の有力メーカー3 社とともに欧州市場へ向けた強力なプロモーションを展開しました。

  - **株式会社タナベ（新潟県糸魚川市）：**

    EV（電気自動車）やスマートフォン向け電池の「電極材料」製造に不可欠な、高温高気密ロータリーキルン（回転式熱処理炉）で高い知名度を誇るメーカーです。2019 年にスウェーデンへ欧州現地法人を設立しており、欧州内で建設が加速する車載用電池工場をターゲットに据えた出展を行いました。

  - **ツカサ工業株式会社（愛知県半田市）：**

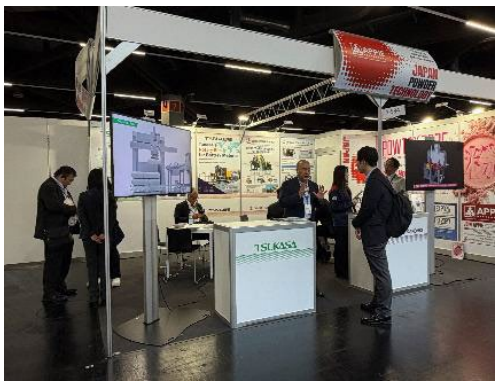
    粉体機器の総合メーカーであり、特に食品製造分野において圧倒的な国内シェアと実績を誇ります。2024 年のスイス支店開設を足がかりに、2025 年の「POWTECH」へ初出展し、早くも現地での成約へ結びつけました。2 回目の出展となる今回も、厳しい衛生基準が求められる食品分野をターゲットとした統合粉体処理ラインやシステム一式を披露し、欧州市場でのプレゼンスをさらに高めました。

  - **中央化工機株式会社（愛知県豊明市）：**

    国内で高いシェアを誇る振動ミル・乾燥機のパイオニアであり、今回は乾燥技術に焦点を当てて出展しました。同社の高品質な粉体乾燥ソリューションは、振動による流動化とマイクロ波を融合させることで、金属摩耗粉などの混入を徹底的に抑えるコンタミレス性能と乾燥時間の短縮を両立。品質管理に対して極めて厳格な欧州の製薬や高度化学メーカーに向けて、その高い優位性をアピールしました。



共同ブース：ホール 7-534



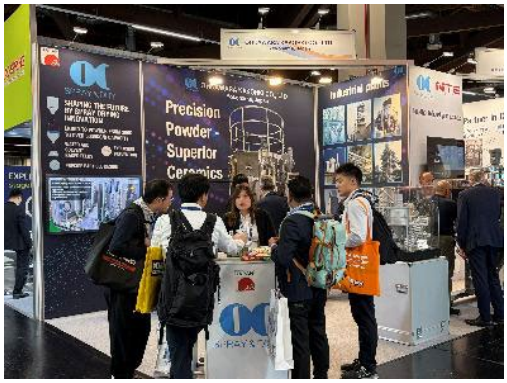
共同ブース：ホール 7-534

- **大川原化工機株式会社：独自の粒子設計技術で築く欧州でのプロモーション**

  スプレードライヤ（噴霧乾燥機）を核とした液体の微粒化・粉体化技術を展開する同社（神奈川県横浜市）は、単独ブースを構え独自の存在感を放っていました。ブースでは、均一な粒子径と最適な粒子特性を自在にコントロールする独自の「粒子設計技術」を紹介。隣接して出展したイタリアの現地代理店スタッフと緊密に連携し、欧州市場におけるさらなる市場開拓に向けて精力的なプロモーションを展開しました。

- **BLUE TAG 株式会社：AI 画像解析ソフト「AIPAS」による材料開発 DX の提案**

  今回初出展となった同社（東京都台東区）は、AI を活用したミクロ領域の粒子・粉体画像解析ソフトウェア「AIPAS（アイパス）」を披露しました。顕微鏡画像から凝集した粒子を自動で個別に分離・定量解析できるこの革新的なシステムは、煩雑なサンプル前処理や従来の二値化処理に伴う閾値調整が不要である点が大きな特徴です。完全オフラインでの運用による高いセキュリティ性もフックに、研究開発の大幅な高速化と厳格な品質管理を目指す欧州の電池・製薬・新材料メーカーにアピールしていきたいとのことでした。



大川原化工機株式会社：ホール 7-680



BLUE TAG 株式会社：ホール 9-430

POWTECH TECHNOPHARM の最大の強みは、業界の垣根を越えた分野横断的なアプローチにあります。 多くの出展企業が複数の産業プロセスで共通して活用できる汎用性の高い製品やサービスを提供しているため、来場者は隣接する他業界のトレンドや技術を直に視察し、それを自社の製造プロセスに応用できるという大きなメリットを享受できます。

今回の見本市では、欧州の環境法規制を見据えた循環型経済への対応や、AI・デジタル技術の融合（スマートインダストリー）が、プロセス産業における次の 10 年を牽引する重要な潮流であることを強く印象づけました。

なお、POWTECH TECHNOPHARM は「2 年連続で開催したのち、1 年休み」という独自のサイクルで運営されています。このため、2027 年の休催年を経て、次回は 2028 年 9 月 26 日（火）～28 日（木）の 3 日間にわたり開催される予定です。次回は、粒子技術に関する国際会議「PARTEC」と同時開催されるほか、欧州を代表するパッケージングの見本市 FACHPACK の併催も予定されています。今回の出展者の 93%が次回 2028 年も再び参加する意向を示しており、さらなるイノベーションの創出に大きな期待が寄せられています。